

2022年度 尾鷲中学校 文化祭 上演脚本

上演日時：2022年11月20日(日)

場所:尾鷲市民会館 せぎやまホール

赤ずきん…？

作：林 風花

潤色：三重高校演劇部

上演団体：三重高校演劇部

2022年11月1日 第3稿

登場人物

・赤ずきん…中森

・語り部…矢守

・継母…藤原

・姉1…辻

・姉2…戸谷

- ・魔女…川瀬
- ・三狼…村田
- ・白ウサギ…宇野
- ・豚1…戸谷
- ・豚2…辻
- ・ライオン…山岡
- ・おばあさん…藤原
- ・赤狼…清水

1 始まり

語り部が歩いている。ふと、椅子の上に置かれた本を見つける。

語り部 『赤ずきん』…？

中身をペラペラとめくってみると、椅子に座り読み始める
そこに赤ずきん登場

語り部 むかーしむかし。あるところに一人の少女がいました。少女は、毎日赤い頭巾を被っていたので『赤ずきん』と呼ばれ、継母と姉達にこき使われて過ごしていました。

継母、姉1、姉2、登場

継母 ちょっと、あなた。どこへ行くつもり？

赤ずきん どこって、おばあちゃん(の所へ…)

継母　　まあ、逃げようとしていたのね。掃除をしておくようにいったじゃないの。

赤ずきん　掃除って…(きょろきょろ)

継母　　居候の分際で逆らうつもり？

赤ずきん　居候って…あ、すみません。

姉1　　そうよ、赤ずきん、あんたはこの名門の我が家ではただの居候じゃない。

姉2　　本当に図太い女ね。

姉1　　(笑って)赤ずきん、私達は今日、舞踏会に行くのよ。

姉2　　そうよ。今日は王子様も参加するの。

継母　　とびっきりおめかしして、王子様のハートを射止めるのよ、お前たち。

姉1　　もちろんですわ、お母様

姉2　　必ず、王子様のハートを射止めますわ

継母　　その意気よ。

姉1　　(赤ずきん)だからあなたはお留守番、絶対についてきたりしないでね。

姉2　　みすばらしいあんたなんか連れて行ったら、私たちが国中の笑い者になっちゃうもの

赤ずきん　…

継母　　さ、これから着替えて、入念にお化粧して出掛けなきゃ。じゃあ、しっかりと働くのよ。

姉1 私たちが帰るまでに家をピカピカにしておくのよ。

姉2 そうよ分かった？

継母 さあ、お前たち、急がなきゃ。

舞踏会の噂話をしながら3人、去る。

赤ずきん …

語り部 そんな赤ずきんは、何か欲しいものがある時、自分でマッチを売ってお金を稼いでい
ました

赤ずきん マッチは…マッチいりませんかー

人の声と足音。

ここは、色々な人が登場して歩き回る。

赤ずきんマッチを売ろうとするが、売れるはずもなく、途方に暮れる。だが、しばら

くして諦めずにもう一度売り始める

赤ずきん マッチは要りませんかー…って何よこれ？！

赤ずきん、語り部に詰め寄る

語り部 え？

赤ずきん さっきから黙ってやってりゃ、なんなのよこれ？！

語り部 赤ずきんですが…

赤ずきん どうしたら赤ずきんにシンデレラとマッチ売りの少女が混ざるのよ？

語り部 さあ？私はただこの本を読んでいるだけですし

赤ずきん おかしいと思わない？

語り部 と、言われましても…本にそう書いてあるんですもん。やっぱり、お話は本に書いてある通りに進めるのが一番ですし。

赤ずきん どこから持ってきたのよ。この本。

語り部 さあ？

赤ずきん さあ、って何よ。

語り部 (指で上を指して)天から？

赤ずきん あんた私をバカにしてんの？いったいどこに、赤ずきんとシンデレラとマッチ売りの少女が混ざったお話の本があるの？もういい。あんたと話していると罅が開かないわ。

その本、貸しなさい

語り部 どうするつもりですか？

赤ずきん 決まってるじゃない、その本をこのマッチで燃やすのよ

語り部 もやっ?!だ、だめですよ！そんなことしちゃ！絶対に貸しませんからね

赤ずきん 貸しなさいって言ってんでしょ！

赤ずきん、語り部から本を奪おうとする。

赤ずきんと語り部、悲鳴を上げながら追いかけてこ。

語り部追い込まれる。

語り部 ああ！待ってください！こ、この後！この後から赤ずきん要素出てきますから！

赤ずきん 本当かしら？

語り部 ほんとは。ほら、お婆さんのお見舞いに行ったりとか…(必死のアピール)

赤ずきん …まあ、今回は見逃してあげるけど、次変なことしたら本気で取り上げて、本燃やすから

語り部 どうかそれだけのご勘弁を！とにかく、続き読みますね

赤ずきんは元居た場所に戻る

2 魔女

語り部 ある日、赤ずきんは山の奥に住むおばあちゃんが病気になったと聞き、マッチを売って稼いだお金でワインとケーキを買い、おばあちゃんの家までお見舞いに行くことにしました。その道中、赤ずきんは黒いローブを羽織った老婆、ではなく、とんがり帽子に黒いマントのいかにも魔女といった風貌の女性に会いました

魔女 そこにいる可愛らしいお嬢さん。

赤ずきん、魔女を避けていこうとするが、魔女が真正面に来て行かせてくれない。

赤ずきん あの…どちら様ですか？

魔女 いえ、名乗るほどのものでは。

赤ずきん 知らない人には関わるなって言われているんで。

魔女 いや、怪しい者じゃないんで。

赤ずきん …(怪しい目で見ると)

魔女 まあ、それは置いといて。お嬢ちゃん、と一っても甘くて美味しいリンゴはいかが？

赤ずきん 結構です。

魔女 まあ、遠慮なさらずに。

赤ずきん いえ、知らない人からものをもらうなって言われているんで。

魔女 こうやって知り合いになったんだし。

赤ずきん 強引すぎませんか？

魔女 まあ、そういわずに。

赤ずきん お金もありませんし。

魔女 あら、その年でとっても苦労しているのね。今回は特別サービス、お代は結構よ。

赤ずきん いえ…私、おばあちゃんの家にお見舞いに行かなくちゃいけないんで。

魔女 あら、もしかして、お婆さまはご病気？なら、このリンゴでジャムを作ってはどうかしら？お婆さまもきっと元気になるわ。

赤ずきん、無言で語り部のところまで行って頭をはたく

語り部　　いって。

赤ずきん　　どうして白雪姫の魔女がいるのよ？！

語り部　　どうしてって言われても、本にそうやって書いてあるんですもん

赤ずきん　　もんじゃないわよ。と、に、か、く！私はふつーの赤ずきんをやりたいのよ

語り部　　えー(本の先を確認しながら)あ、安心してください！この後、狼が出てきますから！や

っぱり、赤ずきんといえば赤ずきんちゃんを騙す狼って定番ですよね！

赤ずきん　　(冷たい目で見ると)

語り部　　本当に、狼が…

赤ずきん　　なら、早くしてちょうだい

語り部　　ふぁーい

赤ずきん、マッチ箱を出そうとする。

語り部　　はい。

語り部が大人しくなった後、赤ずきん、元居た場所に戻る

3 3匹の子豚の狼

語り部 なんとか魔女の勧めを断った赤ずきんは森をどんどん進んで行きました。しばらく歩

いていると、赤ずきんは狼に会いました

三狼 おい、そこの人間

赤ずきん …

三狼 おい、聞こえてんのか？

赤ずきん …

三狼 無視すんじゃねえよ！

三狼、赤ずきんを無理矢理振り返らせる

赤ずきん きゃあ！変態！（赤ずきん、幕の向こうに逃げていく）

三狼 え、あ、おい、ちょっと待てよ。

赤ずきん、幕の向こうから現れて逃げる。

三狼、ちょっと待てよ、とか言いながら追いかける。

1 往復くらいして、赤ずきん、疲れて座り込むところに、息を切らせながら狼が追い付く。

三狼 おい、俺は変態なんかじゃない。ただの狼だよ。

赤ずきん そんなこと言って私を食べるつもりでしょ。

三狼 そんなつもりじゃねえよ。

赤ずきん 嘘。

三狼 嘘じゃねえよ。ちょっと、聞きたいことがあっただけだよ。

赤ずきん 何よ。

三狼 お前子豚を3匹見なかったか？

赤ずきん 子豚？見てないわ。どうして？

三狼 あいつら、あいつら…(狼力を入れる)俺のことを鍋に入れて食おうとしたんだぜ?! あいつらのせいで俺は全身火傷を負って全治1ヶ月だぞ! その間、ろくに動けやしなし、治療費だって馬鹿にならない!! なのにあいつら、詫びの一言もありません!!

赤ずきん あなたは、その子豚達を見つけたらどうするの？

三狼 もちろん、治療費を全額負担させてから食べてやるよ

赤ずきん、無言で語り部をしばく

語り部 いったあ

赤ずきん あんたふざけるのも大概にしなさいよ！

語り部 ふざけてるも何も、本にそうやって書いてあるんですってばあ

赤ずきん そもそも、そんな本を読んでるあなたも悪いでしょ！どこのどいつが書いた『赤ずき
ん』よ？！

語り部 それがわかんないんですよ。これ、題名と本文しかないんですよ

赤ずきん どうしてそんな怪しさ満点の本読んでるのよ？もっと普通の赤ずきんあったでし
よ？！

語り部 そんなものあるわけじゃないですか。それに、怪しさ満点の方が面白いですし

赤ずきん やってるこっちの身にもなれよ！

語り部 うーん…そんなこと言われましても、私はただ読んでるだけですし。それに…

赤ずきん …何よ

語り部 いえいえ何でも

赤ずきん 気になるじゃない

赤ずきん ほんとに。お気になさらず。とりあえず、続きいきますか

赤ずきん、渋々元の場所に戻る

4 ハプニング

語り部 狼に嘘を教え、ことなきを得た赤ずきんは、どンドン森の奥へ進みました。すると、

とても急いでいる白ウサギに出会いました。

白ウサギ 大変！急がないとパーティーに遅れちゃう！

赤ずきん ウサギさん、そんなに急いでどうしたの？

白ウサギ、穴の中に消える。

赤ずきん、その穴をのぞき込む。

赤ずきん ウサギさん、どこに行ったの？ウサギさん。

赤ずきん、バランスを崩して穴に落ちこちてしまう。

それを通りがかった豚1、豚2が目撃する。

豚2 大変だ、兄さん。女の子が穴の中に落ちちゃった！

豚1 馬鹿！んなことより自分の事心配しろ！狼がすぐそこまで来てんだぞ

豚2 うん…

豚1 俺の藁の家も、お前の木の家も吹き飛ばされちまって、もう頼れるのは弟のあいつの家しかないんだ。

豚2 分かってるよ。

豚1 人の命を心配するより、まず自分の命を守る方が大切だ。あいつの家はすぐそこだ、行くぞ。

豚2 分かったよ兄さん。

豚去る。暗転

明かりがつくと、赤ずきんが倒れている。

語り部 あれ？赤ずきん？大丈夫ですか？…返事がない、ただの屍のようだ…、まあ続きを読みますか。

赤ずきん 起き上がって、語り部をピコピコハンマーで無言で叩き続ける

語り部 うわっ！あ、赤ずきんさん、おはよ…って痛い！地味に痛いから！ちょっと！！

赤ずきん、一旦動きを止める

語り部 なんなんですか？

赤ずきん …

語り部 え？無言は怖いんですが…

赤ずきん …な…よ…れ

語り部 え？なんて？

赤ずきん なんなのよこれ！

語り部 うええ??

赤ずきん 三匹の子豚の狼の次は不思議の国のアリスの白ウサギ？ってか、なんで三匹の子豚の豚もいるのよ？私は、アリスじゃなくて『赤ずきん』なのよ！普通は穴に落ちないのよ！痛かったじゃないの！

語り部 まあ、一旦落ち着いてください

赤ずきん これで落ち着いてられるとでも？

語り部 お婆さまの家まであと少しですから！家までは何もハプニングは起きませんから！

赤ずきん …本当？

語り部 本当ですよ。さ、続きやりますよ

赤ずきん、元の場所に戻って元の体制になる

5 ライオンとお婆さん

語り部 赤ずきんが目を覚ますと、よく見慣れた森でした。さっきまでのことは夢かと思っ
ていると、少し先に赤い屋根の家が一軒建っていました。

赤ずきん おばあちゃんの家だわ！

語り部 さっそく、赤ずきんはお見舞いのワインとケーキを持ってお婆さんの家の扉をノック
します。

赤ずきん おばあちゃん！私よ、赤ずきんよ！

語り部 赤ずきんがそう言うと、お婆さんの家の扉が開き、向こうからライオンが襲いかかってきました

ライオン ガオッー……

赤ずきん きゃあ！

ライオン やっぱ無理だよ…

赤ずきん …え？

ライオン 来るのがか弱い女の子だって言っても、やっぱ怖いし。もしかしたらナイフか何か持ってるかもしれないし、なんなら銃かもしれない。そんなのに勝てるわけないもん。ドロシーや木こりやカカシ達に勇気づけてもらったからってすぐに度胸はつかないし、僕ってただ図体がでかいだけだから力だってそんなにないし、すぐに虎とか象とか狼に負けちゃうくらい弱いし、そもそも犬ですら怖いのに人間はハードルが高いよ
う…

赤ずきん あの…

ライオン 言わなかったってわかってるよ。僕は臆病だし根暗な弱いライオンさ。女の子1人襲えやしない。

赤ずきん そうじゃなくて！ええーっと、おばあちゃんは…？

ライオン お婆さん？あの人なら家の中だよ。君が来るから、僕の度胸づけに丁度いいって襲わせようとしてたけど、そもそもそれが出来るならお婆さんのことだって既に襲えてるだろうし、やっぱりそれができてない時点で僕は臆病者さ。森の皆に笑われたって仕方ない

赤ずきん ええっと…

語り部 くよくよしたライオンをどうしようか、赤ずきんが迷っていると、また扉が開き、中からお婆さんが出てきました

お婆さん なんだい？あんたまた失敗したのかい？

赤ずきん ☆おばあちゃん！！

ライオン ☆お婆さん…！！

ジュディ・ガーランドの「Over The Rainbow」が流れる。

お婆さん ライオン、あんたほんとに意気地なしねえ。力はあるんだから、もうちょっと気張きなさいよ。知恵がない案山子には知恵を、心がないブリキの木こりには心を手に入れたんだから、あとはあなたが勇気を持たないと。

ライオン そんなこと言ったって～

お婆さん 本当どうしたものかしらねえ…(音楽フェードアウト)

赤ずきん あの、おばあちゃん…

お婆さん あら、赤ずきん。いらっしやい、よく来たわねえ。元気だったかい？

赤ずきん あ、うん、元気、だよ…

お婆さん そうかい、それは良かった

赤ずきん あのね、おばあちゃん

お婆さん どうしたんだい？赤ずきん

赤ずきん おばあちゃん…孫をライオンに食べさせようとしてなかった？そもそも私、おばあちゃん
が病気だって聞いたからお見舞いに来ただけど

お婆さん あら、そうなの？ありがとうね

赤ずきん でもおばあちゃん、病気の割にはとっても元気だね。もしかして病気ってのは私をこ
こにこさせるための嘘？

お婆さん はて？なんのことやら。それより、赤ずきん、お茶とお菓子はいかが？丁度美味しい
のが手に入ってね

赤ずきん え？ちょっと待って、まだ話の途中なんだけど

お婆さん ほら、ライオンも。いつまでもいじけてないで中に入ってお茶の用意手伝って

ライオン はーい…

語り部　　そう言うと、お婆さんとライオンは家の中に入っていき、家の前には、赤ずきんが呆然と立ち尽くすのみでした。

赤ずきん、語り部をしばく

赤ずきん　この嘘つき！

語り部　　うえ？嘘なんてついてませんけど…

赤ずきん　もう何も無いって言ったじゃん！

語り部　　私は家まで行く間にハプニングは起きないって言っただけで、家に着いた後のことは何も言ってないですもん！だから嘘はついてない！

赤ずきん　何よその言い訳。子供か！

語り部　　見かけは大人、頭脳は子供です。

赤ずきん　逆だろ。

語り部　　少なくとも赤ずきんさんよりは年上です！

赤ずきん　ああもう！ってというか、人の祖母を変な人にしないでくれる？返してよ、私の優しいおばあちゃん！

語り部　　今のお婆さんだって十分優しいじゃないですか

赤ずきん どこがよ

語り部 ほら、意気地なしのライオンに度胸をつけさせようとしてるところとか

赤ずきん だからって孫を襲わせたりはしないわよ！

語り部 普通じゃつまんないじゃないですか！

赤ずきん 普通でいいのよ！ってか、なんでオズの魔法使いのライオンがいるのよ？

語り部 さあ？なんでもありですから、この本

赤ずきん ありすぎなのよ

語り部 まあまあ。ほら、続き、やりましょう。これでもう最後なんですから

赤ずきん これでこの変なのから解放されるのね

語り部 そう、ですね…

赤ずきん ん？何かあった？

語り部 いえ？なにも？

赤ずきん そう？

語り部 ほら、始めますよ

6 襲撃

赤ずきん、元の位置に戻るとお婆さんとライオン登場

語り部 赤ずきんが家の中に入ると、お婆さんとライオンがテキパキとお茶会の準備を進めて
いました。

赤ずきん おばあちゃん、私も手伝うわ…あ、そういえばこれ。お見舞い。

お婆さん あらあらあら。わざわざありがとね。せっかくだから一緒にいただきちゃいましょう
か。ライオン、お皿と包丁を持ってきてちょうだい。

ライオン はい

ライオン、一時退場

語り部 三人が和気あいあいと準備をしていると、扉を叩く音がしました

お婆さん はあい？

語り部 お婆さんが扉を開くと、突然、狼がお婆さんに襲いかかってきました

お婆さん、すんでのところで躲す

赤ずきん おばあちゃん！

赤ずきん、お婆さんのところに駆け寄る

お婆さん 安心して、ただのかすり傷よ

赤ずきん でも！

赤狼 チッ。失敗したか。まあいい、まさかこんな山奥に美味しそうなのが2匹もいるとはな。運がいい。年のいってるのは、ちと肉が少ねえが、淡泊な味がしていいんだよなあ。若いのは肉は多いんだが、油っこすぎる。先に若いのを食って、その次に年のいってるやつを食べようか。いや、逆もいいかもしれねえ。ああ、いや、2匹とも同時に食べたらもっとうまいかもしれねえ。きっとそうだ、そうしよう

語り部 狼がそんな独り言を言ってる間、お皿と包丁を取りに行っていたライオンが帰ってきました

ライオン お婆さーん、もってきt…え？！

ライオン、隠れて、顔だけ覗かせながら

ライオン え、狼がいる。どうしよ。と、とにかく誰か呼んで…

赤狼 あ？そこに誰かいんのか？

狼、ライオンのいる方向を見る

ライオン ひえ…！バレてる…

赤狼 コソコソしてねえで出て来いよ！…出てこねえつもりなら、俺様が直接そっちに行っ
てやる

狼、ゆっくりライオンの方に歩いていく

ライオン どうしよ、ほんとにどうしよ。助けを呼びに行っても、その間にお婆さんたちが食べ
られちゃうかもしれないし、かといって僕に狼を倒すほどの力もないし…

語り部 ライオンが狼を追い出す方法を考えているとき、赤ずきんが狼の前に飛び出しました

赤ずきん あんた、突然来て何するのよ！

赤狼 あ？んだてめえ？

赤ずきん アンタのせいでおばあちゃんがケガしたじゃないの！どうしてくれんのよ！

赤狼 うるせえな、黙ってろ！

赤ずきん きゃ？！

赤狼、赤ずきんを突き飛ばす

ライオン あ、赤ずきんちゃん！

ライオン、隠れていたところから飛び出す

赤狼 やっと出てきたか

ライオン やい、赤ずきんちゃんと、お、お婆さんから、は、離れろ！

赤狼 あ？

ライオン やっぱタンマ！

ライオン、元の場所に戻る

赤狼、ずっこける

赤狼 おいおい、まさかあの百獣の王たるライオンがこのざまかよ！情けねえな！

ライオン うう…

赤狼 さて、あんなヘタレはほっといてさっさと飯にするか

ライオン やばい！このままじゃ。…でも…いや、でもじゃない！僕がやらなきゃ！

音楽、勇気の出るような音楽が流れ、ライオン、出てくる

ライオン まで、狼

赤狼 なんだ？臆病なライオンさんよお

ライオン 貴様、あれが私の本来の姿とでも思ったのか？

赤狼 …まさか、違うのか？

ライオン 左様、あれは私の仮の姿。私が本気を出せば貴様をひねることなど造作もない

赤狼 な、なんだと？

ライオン 今すぐこの家から出ていけば許してやろう。さもなければ…

赤狼 さもなければ…

ライオン お前を食いちぎってやる！ガオー！

赤狼 (急に弱気になり)わかった、出ていくから食わないでくれえ！

狼、走って退場

音楽フェードアウト

ライオン …出ていってくれて良かった…

赤ずきん ありがとう、ライオンさん！

お婆さん ライオン、やっと勇気を出すことができたねえ。

ライオン (泣く)

お婆さん あ、よしよし。ありがとうね。(ライオンをハグ)

ライオン お婆さん、ありがとう…(言葉にならない)

お婆さん さ、お茶会しましょ。今日はお祝いしなくちゃね

語り部 こうして、赤ずきんとお婆さんとライオンは仲良くお茶会をしたのでした。めでたし
めでたし

暗転

7 終幕？

語り部、浮かび上がる。

語り部 (本を見せて) どうしてこんな、無茶で、ごちゃまぜの赤ずきんの本があったんでしょう
かね？

間

語り部 いやー終わってしまいましたね。終わると少し寂しいですねえ。次でも探しますかあ

語り部が歩いていきながら暗転

明るくなったら『赤ずきん』とは別の本が置いてある

語り部 『不思議の国のアリス…？』

一度中身をペラペラとめくると、椅子に座り読み始める

語り部 むかーしむかし。あるところにアリスという名の一人の少女がいました。少女はある日、子どもたちにいじめられたカメを助きました。すると…

アリス またあんたかあ！

アリスと語り部が本を取り合いの追いかけっこをしている様子を、他の全員が楽しそうに見守って。音楽上がってきて。

幕